

山室民子と武甫 --宗教2世であった彼らはどう生きたか
(民子の日記と武甫の妻阿部光子の私小説をてがかりとして)

牧 律 (まき りつ)

明治学院大学キリスト教研究所 協力研究員

(発表要旨)

宗教2世という言葉が今世の中を騒がせている。振り返れば日本のクリスチャンホームで育った子供たちも、親の宗教的信条のもとで育ち、親が信ずる宗教を継承するか否か、その成長の過程で多くの葛藤を経験してきたと思われる。その子供たちの葛藤を取り上げた分析はほとんど見られない。

とりわけ著名クリスチャンの子供たちが、親の思いをどのように受け止め生きていったか、そのような観点から分析はほとんど注目されずに今日まで来ているようだ。

山室民子と山室武甫は、日本救世軍の創始者である山室軍平と機恵子のもとに生まれ、両親の信仰的情熱の深さとその生き方を、尊敬しながらも追随することに葛藤してきた人たちである。

とりわけ彼らの社会的な顔ではなく、個人的な面を伺える資料として民子自身が記した生活日記と武甫の妻阿部光子が記した山室家についての私小説で、その葛藤を知ることができる。

今回はそれらの資料から知り得た民子と武甫の生きざまを紹介して宗教2世の問題を考える一つのステップとしたいと思う。また阿部光子の私小説と日記での共通性を紹介し、参考資料としてどの程度ものとして扱えるか・そのことについても参加者の意見を拝聴したい。